

研究概要について

近年、高齢者において低栄養が導く筋肉や身体機能の低下、疲労感や活力の低下（認知機能などを含む）といったフレイル（虚弱状態）が問題視されています。フレイルを事前に診断し、改善していくことが誰の助けも借りることもなく、健康的に日常生活を送るためのいわゆる健康寿命延伸に寄与すると考えられています。本学では、多分野の医療スペシャリストが一カ所に集まっており、その特色を活かし、様々な医療専門分野の観点からこの問題を解決すべく革新的なプロジェクトを立ち上げました。

我々が着目したのは「腸内に住む細菌」です。近年、加齢にともない、腸内細菌の種類や数が変わり、それらが病気の発症につながるものが話題となっています。しかしながら、フレイル状態と腸内細菌との関連性は全く分かっていません。

本学において、高齢者でみられるフレイル状態と腸内細菌との関連性を明らかとし、高齢者の方に栄養改善を施すことで腸内細菌を変化させ、フレイル状態を予防・改善するというこれまで全く知られていなかったアプローチを導くための取り組みをスタートさせます。

